

第5学年 総合的な学習の時間 学習構想案

菊池市立菊之池小学校 教諭 徳淵 香織

1 単元構想

単元名	ふるさと菊之池の米づくり		
単元の目標	米作りを通し、ふるさと「菊之池」の人やものと出会い、自分たちの身近な社会や自然環境への関心を高め、自他ともに大切にできる態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①地域の農家の方の話やJAの方のお話を聞いて、農家の方の思いや課題を理解することができる。 ②国際協力や地域での共助の取組について理解している。	①菊之池の米作りについて学び、地域の産業について考えたことを伝える方法を考えて発信している。 ②収穫したお米を役立てる方法について、地域貢献や学校のため、国際協力などの視点をもって考えている。	①菊之池の米作りについて学んだことを地域づくりに生かそうとしている。 ②収穫したお米を地域づくりや人のために役立てようとしている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
○地域の産業に誇りを持ち、そのよさを守ろうとする児童 ○協力して行動することで、伝えたいことを伝えたり、人の役に立つ行動をしたりしようとする児童			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
菊之池の米作りについて考えよう		地域の産業のよさについて考え、それを守っていくことの必要性や、地域や人のために役立つ行動を考え、協力して取り組むことのよさを考えること。	
指導計画と評価計画（10時間取扱い）			
過程	時間	学習活動（「問い」を設定しても可）	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	4	①地域の水田に田植えをする。 ②地域の米作りについて調べる。 「菊之池の米作りについて調べよう」	【態①】（シート・発言） ○米作りの体験を通して、地域の産業に興味を持ち、米作りについて知ろうとしている。 【知①】（シート・発言） ○米作りをする農家の方の思いを聞き、地域の産業について理解を深めている。
二	4	③収穫したお米を生かす方法について考える。 「収穫したお米を役立てる方法を考えよう」 ④お米を収穫する。	【態②】（シート・発言） ○菊之池の米作りについて理解した上で、それを伝えたり、収穫したお米の生かしたりする方法について考えている。 【知②】（発言・シート） ○国際協力や共助の取組について理解している。 【思①】（シート） ○お米を役立てる方法について、地域貢献や学校のため、国際協力などの視点をもって考えている。

三	2	<p>⑥菊之池のお米のよさを伝え、収穫したお米を役立てる。</p>	<p>【態①】（シート・発言）</p> <p>○地域の米作りの必要性について発信し、収穫したお米を人のために役立てようとして取り組んでいる。</p> <p>【思②】（シート・発言）</p> <p>○菊池の米作りについて伝えるチラシを工夫して作成している。</p>
---	---	-----------------------------------	---

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)		
<p>小学校学習指導要領第1の目標を受け設定された本校の目標「探求的な見方や考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する」をもとに、探究課題と探究課題の解決を通して、育成を目指す具体的な資質・能力を設定し、単元を構成している。</p>		
教材・題材の価値		
<p>本題材の主なねらいは、地域の産業である農業について理解を深めることである。後継者不足、耕作放棄地、気候変動、食文化の変化など農業が直面する課題は多く存在する。本校は菊池川流域に位置する古くからの農業地域である。水田は、新鮮で安全な食材の他にも、保温効果、地下水の保全、生き物の住处など私たちが享受しているものは数多くある。また、農家の方の思いを聞く機会を設けることで、地域の産業である農業のよさに気づき、誇りをもつとともに、地域のよさを守っていききたいという思いをもつことにつながると考える。また、収穫したお米の販売を行う。そこで、そのような収益の役立て方があるのかを調べ、よく吟味して活用することで、お金の使い方について考えたり、協力して行動したりする。そのことを通して、自己効力感を高めることができると考える。</p>		
本単元における系統		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">5年「水俣に学ぶ」 水俣病の発生と水俣の人たちの取り組みを知り、人権と環境について考える</p> </div>		
<p style="text-align: center;">4年「菊池の龍伝説」 菊池に伝わる龍伝説を知り、菊池に誇りを持つ。龍伝説をもとに地域を盛り上げようとしている活動を知り、できることを考える</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">5年「ふるさと菊池の米作り」 菊池の米作りについて学び、お米を役立てる方法を考える。</p> </div>	<p style="text-align: center;">6年「創作！延寿太鼓」 ふるさとの歴史を調査し、先人の生き方にふれ、ふるさとにほこりをもつ。</p>
児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）		
<p>児童は、3年生での総合的な学習の時間において、地域の特産物である水田ごぼうについて調べ、4年生では菊池の龍伝説について調べるなど、地域についての学習を深めている。5年生では、総合的な学習の時間で水俣の環境保護についての歩みを学び、社会科では産業の一つとして農業について学んでいる。4年生までの地域学習で地域の人や歴史を中心に学んできたが、5年生では地域の産業に焦点を当てて地域についての学びを深めていくことが必要である。</p>		

3 指導に当たっての留意点

【児童が問いをもって学ぶための手立て】

- 田植えや稲刈りの体験と社会科「米作りのさかんな地域」の学習を関連付けて、菊池の米作りについて関心を高めることができるようにする。
- 地域の米作りについて学び、よさについて考えた後、お米の活用について考えることでより役に立つ活用の仕方について考えることができるようにする。人のために役に立つ方法を考えることで、社会における国際協力や共助の考え方を理解し、協力して社会生活を営むことの大切さを考える。
- 単元のゴールを考える際に、「学校のために役立てる」「地域のために役立てる」「環境保全のために役立てる」などの視点を明確にして、話し合いをすることで、目的を共有できるようにする。

ESDの視点（見方・考え方）

- 有限性：地域の中心産業である農業も、守っていく努力をすることで存続することができる。
- 連携性：みんなで話し合い、考えて行動することで、一人ではできなかった人の役に立つ行動ができる。
- 責任性：地域に育った一人として、学んだことを地域のために生かすことができる。

ESDで育てたい資質・能力

- ・他者と協力する態度
調べたことを話し合ったり、お米の活用について考えを出し合ったりすることで、どんなことを大事にしたいのかを繰り返し問い直し、自分の考えを深める。
- ・多面的・総合的に考える力
世界規模の課題や身近な課題について自分がどう関わることを考えることで、完全な解決ができなくとも、少しずつ変えていく力になることを実感を持って考える。

